



大阪科学・大学記者クラブ 御中

公立大学法人大阪市立大学

シンポジウム「激動の時代と学問・思想 — 戦中・戦後の大阪市立大学と恒藤恭 —」

大阪市立大学は、平成24年12月1日（土）に大阪市立大学 学術情報総合センター10階 大会議室にてシンポジウム「激動の時代と学問・思想 —戦中・戦後の大阪市立大学と恒藤恭—」を開催します。

本学の初代学長 恒藤 恭（つねとう きょう）の学問や思想を継続的に検討するシンポジウムも4回目となる今回が最終回となります。

今回の企画意図は、『戦中から戦後という時代の中で激動する大学や学問に対し、恒藤がどのように対応したのか、同時代の恒藤の論説や文学作品から明らかにする・当時の世界と日本を見据えた恒藤の独自の理想主義的な立場は、同じように激動する現代の世界と日本に対しても示唆するところが大きい』です。

ひろく関心のある皆様のご参加をお待ちしています。

記

- 1 日 時 平成24年12月1日（土） 13時00分から16時30分まで
- 2 場 所 大阪市立大学 学術情報総合センター10階 大会議室
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
JR阪和線「杉本町（大阪市立大学前）駅」下車、東へ徒歩約5分
地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車、4号出口より南西へ徒歩約20分
- 3 講演者 広川 禎秀（大阪市立大学恒藤記念室特任教授・名誉教授）
上田 博（明治文芸研究者）
- 4 定 員 200名
- 5 費 用 不要
- 6 申込方法 不要
- 7 主 催 大阪市立大学 大学史資料室／恒藤記念室

以上

【本件に関する問合せ先】

大阪市立大学 学術情報総合センター運営課 担当：氏家（うじいえ）

TEL：06-6605-3211 FAX：06-6605-3218

E-mail：syomu@media.osaka-cu.ac.jp



激動の時代と学問・思想

—戦中・戦後の大阪市立大学と恒藤 恭—



恒藤 恭 (1957年卒業アルバムより)

2009年の「恒藤恭と芥川龍之介—時代と対峙した二つの知性—」、2010年の「恒藤恭の思想と学問の発展—文学青年から社会学者へ—」、2011年の「近代日本の都市と大学—創設期大阪市立大学と恒藤恭—」という3回のシンポジウムを受け、戦中から戦後という時代の中で激動する大学や学問に対し、恒藤恭がどのように対応したのか、同時代の恒藤の論説や文学作品を通じて、その独自の立ち位置を明らかにする。ひろく関心のある皆様のご参加をお待ちします。

報 告

広川 禎秀 (大阪市立大学恒藤記念室特任教授・名誉教授)
「恒藤恭の時代認識と進歩への希願」

上田 博 (明治文芸研究者)
「恒藤恭の戦後の感情風景」
—〈少年の眼〉の位置—

コ メ ン ト

久野讓太郎 (大阪市立大学恒藤記念室研究員)
村田 正博 (大阪市立大学文学研究科教授)

司 会

桐山 孝信 (大阪市立大学副学長)
飯吉 弘子 (大阪市立大学大学教育研究センター准教授)

12月1日(土)

2012年(平成24年)

午後1時～4時30分(開場 12:30)
大阪市立大学 学術情報総合センター10階
大会議室

★入場無料★
申し込み不要

問い合わせ先 / 大阪市立大学 <杉本キャンパス>

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大学史資料室

tel : (06)6605-3371 / fax : (06)6605-3372

学術情報総合センター tel : (06)6605-3211 / fax : (06)6605-3218

プ ロ フ ィ ー ル

(登壇順)



広川 禎秀(ひろかわ ただひで)

大阪市立大学恒藤記念室特任教授、大阪市立大学名誉教授。文学博士。
日本近現代史を研究。『恒藤恭の思想史的研究』(大月書店、2004年)など、恒藤恭の思想史的研究をおこない、近作に「恒藤恭の思想と学問の発展—文学青年から社会学者へ—」(『大阪市立大学史紀要』第4号、2011年)がある。長く大学史資料室長を務め、恒藤記念室の資料充実に尽力した。大学史資料室編『向陵記—恒藤恭—高時代の日記—』(大阪市立大学、2003年)の編集・刊行では中心的役割を果たした。



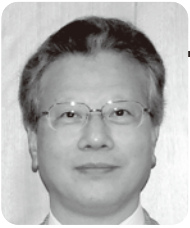
上田 博(うえだ ひろし)

明治文芸研究者 文学博士。
日本近代文学を研究。橘女子大学助教授、立命館大学教授などをつとめた。石川啄木、与謝野晶子の研究で知られる。『尾崎行雄:「議会の父」と与謝野晶子』(三一書房、1998年)、『別離(若山牧水)』(明治書院、2000年)、『「職業」の発見』(共編著、世界思想社、2009年)ほかの著作がある。本プロジェクトでは、「『世界民の愉悦と悲哀』ふたたび」(『大阪市立大学史紀要』第4号、2011年)などの論考を発表している。



久野 譲太郎(くの じょうたろう)

同志社大学大学院博士後期課程在籍。大阪市立大学恒藤記念室研究員、同志社大学人文科学研究所嘱託研究員。文学修士。
近代日本思想史を専攻。恒藤恭の思想史的研究を行い、「『総力戦体制』下の恒藤法理学—「統制経済法」理論をめぐって—」(『ヒストリア』231号、2012年)などを発表。本プロジェクトでは、『恒藤記念室叢書』第2集(2012年)で、「恒藤恭滝川事件関係資料」の翻刻・編集を行うとともに、「解題」および論文「『死して生きる途』生成の論理—「恒藤恭ノート」(一九三三年四・五月)を手がかりとして—」を執筆した。



村田 正博(むらた まさひろ)

大阪市立大学大学院文学研究科教授。文学博士。
国文学を専攻。主著『萬葉の歌人とその表現』(清文堂出版、2003年)など、万葉集の研究で知られるが、研究の関心は広く近現代にまでおよび、「子規初学—和歌史再生その前夜—」(『文学史研究』第46号、2006年)、「子規開眼(一)—橘曙覧遺稿「志濃夫廼舎歌集」をめぐって—」(同誌第48号、2008年)などの論考がある。本プロジェクトでは、芥川龍之介の恒藤宛年賀状の漢詩を分析した「年賀の詩ふたつ—明治四十五年芥川龍之介の推敲—」(『大阪市立大学史紀要』第3号、2010年)がある。

